WASON
HQ
1104
J74+

THE WOMAN'S MAGAZINE

明治二十年十二月廿四日刊行

每土曜日發兌
一冊正價五錢
府內無郵送税

女學雜誌

第九十號

東京　女學雜誌社

Dec.
1887
no. 90

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

附 基督降誕祭祝帋 録

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 90, December 24th, 1887.

第九十號

EDITORIAL:—Farewell to the Twentieth year of Meiji.

LEADING ARTICLES:—Love in a friendship, by Late Miss S. Kimura; Secret of Well Dressing and Use of Cosmetic, by Rev. K. Kimura; A Desirable Reform of an Etiquette and the Ancient Custom of Japan. by Mr. S. Sato; Sanitary Matters in Home. by J. Tsuboi. M.D.

MISCELLANIES:—Thou Shalt Love Each Other; Progress of Woman's Education during the Twentieth year of Meiji: Story of Christmas.

BIOGRAPHIES:—Flora Macdonald, Olympia Morata.

GENERAL NEWS.

●社説 明治二十年を送る

●論説 愛の交際に必要なるを論ず(木村秀)○金屋の秘訣(木村熊二)○日本古禮を述て改頁一案よ及ぶ(佐藤定助)○家内の衞生(坪井二郎)

●叢話 爾曹互に相愛すべし○明治二十年間女學の進歩○クリスマスの事

●佳傳 フロラマクドナルド小傳○ヲリムピア、モラタ小傳

●新報 三十件

●クリスマスの慶び歌 ("Last Rose of Summer.") しのぶ

一○
こゝろのそこの　たゝかひも
まどうおもひの　さひしさも
あゝうれしき　あゝうれしき
けふのひかりに　うせてけり。

二○
めぐみのちゝの　ありとしも
しらですぐせし　まよひ子も
あゝみえ玉ふ　あゝみえ玉ふ
あらそのすがた　をがむなり。

三○
めしひのめをも　みえさせて
まがるこゝろも　さとらせて
あゝあきらか　あゝあきらか
すくひのみちの　知られけり。

四○
たのみまつりて　なにごとも
まかせまつらめ　いのちをも
あゝ天のきみ　あゝ天のちゝ
さゝげまつらむ　わがいのち。

五○
ちゝみはなれて　いかにせむ
きみにわかれて　いかにせむ
あゝわがちゝ　あゝわがきみ
かぎりなきまで　もろともに。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌第九十號
明治二十年十二月廿四日

●社説

○明治二十年を送る

日月滯こほる所なく歩み去りぬ吾人明治二十年の斷崖頭上に立ち前途に架け渡す一條の橋を過ぎらんとして暫らく躊躇し首べを周らして後方を顧みるに感激殆んど窮まる。

嗚呼女學の隆盛なる何如にして能く如斯に至りたるか、明治十七年吾人初めて文壇上に立現はれて女權論を主張したるより以來府下諸大新聞紙の婦人論各地方に反響して全國至る所ろとして小スチウアートミル氏を出現せしめざるなし斯て男尊女卑を非とするの論輙ち輿論となりぬ斯て女學伸張を急務とするの論輙ち輿論となりぬ斯るが故に家に細君の頭を叩くものも外には其腰を捧ぐるに至りぬ内には娘の利口を禁ずるものも出でゝは盛んに女學校の設立に奔走しぬ斯て十八年十九年はいよ〳〵此の氣勢を强大にして遂に今茲明治二十年と相成り更らに大足の進歩を了して則はち目今の地位に達したりき。思ふに此の數年は女權伸張女學進歩の大勢破竹の勢を以て日本社會を突走したるものなり其勢力の猛なると喩へば十里の原野を燒く烈火の如し固より之を防がんとするものもありき然れども敢て向ひ近づくべきにあらず之に炬火を投じたるものもありき其効何んぞ數うるに足らん要するに其進むや其火自から進む也大勢一呼して千里を走る殆んど外より之を增減すべからざるが如きの勢ひなりけり。

然れども十里の原野を燒く所ろの烈火は蓋し最初偸父の煙草の吸がらに起れり炎々として燃ゆるときは固より撲滅し難きが如しとは雖ども然れども防火の事に熟練したるものは恐らく手を束ねて之を傍觀せざるべきか、況んや初めより此の火を撲滅せんとを願はず時に炬火を投じて之を助け時に火路の樹木を倒して傍に火の逸するを防ぎ只管らに其方向を正しうせしめていよ〳〵其勢力を强からしめ千日滅せず一走して女權を熱し女敵を燒き盡さしめんと欲するに於てをや、當今の大勢を宜しきに導くと敢て至難の事とは云ふべからず、否な固より至て難き事なり然れども吾人は其難きが故に之を放擲するものにあらず力の及ばん限り心身を勞して吾人の義務とする所を盡さんとを希うもの也。

吾人の眼を以て當今の大勢を見るに之れ決して此の儘に放任し其行くが儘に自由に行かしむべきものにあらず數多の改削

數多の取捨を要する所ろありと信ず。蓋し世上に婦人の味方と相成りたるもの近時固より莫大ならん然れども其の紳士諸君ハ果して婦人の靈魂を敬愛し之を一個同等の人類と認め之が爲に眞に慷慨悲歎して信切に力を盡さんことを盟はるゝ所の紳士ある乎、世上或ハ實に如此き紳士あらん而して其の熱心に主張せらるゝ所ろの女權論なるものハ果して男女の性質を研究して各自の專らにすべき特務を承知し然るが上に能く國に適し時に適する穩當平安の方法を議する所ろの女權論なる乎、世上に女學校と稱するもの甚はだ多し近時に至つて特に其多きを覺へ全國今まや至る所ろに其設けあらざるなきを見たり而して之が管理敎育を掌どる所ろの諸君は果して能く女子敎育の理術を心得一方にハ其の身躰の健康を損せしめずして而も文明相應の學藝を敎授し更らに一方にハ女德の優美を失はしめずして而も開化日進の氣象を養成し內に大和なでし子の美を存して外に快活の洋風を採らしむるを得るの覺悟ある乎、近來所々に交際會あるものあり男女混交して相ひ親睦すると云ふ而して之が會を主どるもの果して其の心得ありて之に臨む所ろのもの果して能く眞正の利益を得たりと云ふ乎、舊來の婦女子の風俗中固より數多の弊害あるべし當今萬事改良論の隆んなるに際して一々に此の舊風俗を棄て去らんとするものあり而して此の舊風俗は果して悉く今の婦女子に有害なるもの乎、倘ほ西國の風習日々に輸入するに當り頭上の帽より足下の靴に至るまで腰邊のコルセットより指先きの手袋に至るまで一々に西洋の新風俗を採らんとするものあり而して此の新風俗は果して悉く今の婦女子に有益なるもの乎、舞踏の遊び稍や遠慮して顏をかくすと雖ども倘ほ之れ有り此の事之を何如にすべき乘馬の女遊未だ隆んならずと雖ども漸やく頭をもたげんとす此事亦た之を何如にすべき。大凡そ如此き事今ま其の大勢の趨く所ろを察して密かに思慮するに吾人平生の意見と反對するもの甚だ多し則ハち手を擧げ足を踏み假令ひ毛髮は燒かれ皮膚は爛るゝと雖ども斷乎として此の大勢の烈火に向ひ必らず其方向を變ぜしめざるべからずと確信する所ろのものある也。

而して亦た此の大勢が殆んど無頓着に冷眼視して過ごし去らんとするもの實に尠らず。世上幾多の女權論者あらん然れども娼妓を全廢し藝妓を遠ざくることを主張する者果して幾人ありや、世上幾多の女子職業論者あらん然れども小學校敎員幼稚園保姆大政府の官吏新聞雜誌の記者等として婦人の甚だ適

當せることを贊成するもの幾人ありや、男女の親睦を主張するもの蓋し之れ有ん然れども一夫一婦の制を主張して妾娼姦淫の罪惡を責め以て夫婦和樂の基ひを固めんとするもの幾人ありや、外國の文明を輸入せんとするもの固より之れ有り然れども優温極美のホーム(家族)の味ひを知つて之を無味糟を嘗むるが如き我國の砂漠中に致し先づ親子別居し夫妻相敬し所云る琴瑟團欒の愉快を西洋風にせんことを論じ盡すもの幾人ありや、女子に關する法令の甚だ不穩當にして今尚ほ男尊女卑の餘習を公然に明示するもの、娘孃に對するの風俗尚ほ甚だ不公平にして封建女子を器械視するの弊風今に至つて存在するもの。大凡そ如此き類にして輿論の未だ頓着せざるもの未だ頓着せざるにあらず殆んど無頓着の儘にして其境界を過ぎ去らんとする固より尠らず吾人が平生尤も遺憾として敢て舌を枯らし筆を禿して論辨する所ろにして則はち閃々たる一握の炬火も之を以て先づ路傍の樹木を燒き遙かに原火の至るを迎へて大勢の行く所を導かんと欲する所ろのもの也。

顧みるに吾人不肖何の力量もあるなし然れども幸にして此の大勢が初めて傖父の煙火に起るの時より相知り爾來一日一夜として之と離るゝことなし起ては先づ之を眺め伏しては亦た之を思ひ平常の念願たゞ之と終始して其の宜ろしきに至るに相伴れんと欲するに在り故に始め吾人が自ら盟ふ所ろのもの今尚ほ之れあり今日現に自から期する所ろ亦必らず永遠に渉らん吾人もし吾が同胞姉妹諸君の爲に眞に盡す所ろあるを得バ幸ひあり世上吾人の知己たることを辱うせらるゝの姉妹兄弟若し吾人の衷情を察して共に斯道の爲に盡さるゝ所あらバ喜何者か之に及バん玆に明治二十年を送つて後ち新に諸君を見んとす則ハち感激する所を記るして之を告ると云ふ。

●社告四則

次土曜日は卅一日年末最終の日にして印刷上不都合有之に付休刊し來年一月七日第九十一號發兌可致事

第九十一號より女學雜誌編輯規則に多少の改正を加へ女權女學伸張の方法を論辨することを主旨とするは一に從來と異ることあしと雖も傍ら美術遊技傳紀小說歷史批評等の記事を多くし略ぼハーパースモンスリー、センチウリー、等が外國に於て力を盡すの一部分をも玆に相盡し可申事

此故に從來吾社の爲に特別寄書家たることを承諾せられたる諸氏の外に更に諸學友及び臨時寄書家の論說を請受け記事の種類を成べく手廣く可致事

以後文章を成べく平易にし時事に必要ある高尚の議論及び女學上の講義大文章の類ハ臨時に附錄と可致事

● 論說

○愛心の交際に必要なるを論ず　木村秀

左は本誌第八十四號に小傳を記るしたる故木村秀女史が其交際論中の一篇として草し置きたるもの也

○○○○○○○○○○愛心ハ交際の眼目なり親子の交際愛あり孝と云ふ、夫婦の交際愛あり貞と云ふ、君臣朋友の交際亦た愛あり之を忠臣と云ふ、仁義禮智亦な皆な愛に由て活き愛を受けて働くものなり、見よ愛なきの智ハ狡猾に陷いり易く、愛なきの禮ハ稍々もすれバ虛飾の儀式に流れ易きとを、假へ口に仁義を唱ふるも、心に友愛なければ又た奚ぞ僞善の假面を免れんや、是故に一言一行眞正の愛心より發するにあらざれバ何程交際に巧みなるも觀るに足らざるべく、交友多きも賴み甲斐なしと謂ふべきなり、凡そ愛心なきの交際ハ之を譬ふるに軍隊に將校なしと均し、進退度なく遂に潰亂に至らざるもの殆んど罕れなり、於是か愛心の缺くべからざるを知るべし。

人の善に進み難く惡に趨り易きハ人祖開闢以來既に人の常性となれり、古來天下の人滔々皆な罪惡の流れに漂溺する有樣なり、彼の區々人爲の法律に由て之を救はんとするも其の勢力の微弱なる其法方の不完全なる到底人心を永遠に維持するハ覺束なし、禮儀三百威儀三千の法則を設けて人を束縛するも忠臣孝子の佳傳を說て人を訓導するも、固より其功なきにあらざれども、斯る教育たる稍々もすれバ虛色に流れ、器械的に失し易し、何ぞ心根を改良して眞正の愛を開發するに足らんや、之を要するに無限の智德權勢を有せる靈妙不思議の躰ありて、大ハ天地の外に盈ち小ハ微塵の中に入り、陰顯を問はず、明暗に拘はらず、常に人間の禍福命運を司配するものたることを悟り、以て人の此世に在る目的を了知すると極めて肝要なりとす、是れ即ち愛心の根源にして又た道德の基本なり、今ま人と交際するに方り又た必ず心を玆に留め一擧一動必ず愛心より出んとを勉むべし、若し夫れ然らず只に徒らに交際方をのみ師範とするときハ其交際たる外形上なり器械的なり、何ぞ艱難相救ひ困苦相扶くるの親密を得んや、見よ愛なきの交際ハ君臣を膚使し、親子に暴令し、夫婦を獸待し、友友を凌侮するにあらずや、如是くんバ倫道何ぞ夫れ立たんや、故に曰く愛ハ交際の主眼なり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○金屋の秘訣（第五）　木村熊二

今や我か邦の婦人にして社會の上流を占むるものハ洋裝を必用と爲るもの丶如しといへども未た中以下の社會にある婦人ハ日本服の輕便にして裝飾し易き事を感ずる者多けれハ余ハ此迄ともに日本の裝飾に付て美惡を辨したり屋室建築の次第に變更するに隨ひて洋裝の便利を感ずるに至らんとす我か邦裝飾の時樣も衣裳の改良も決して上等社會より起る可きものにあらさるなり中等社會の婦人にして其の必用を知りて洋裝を用ゆるに至らハ偏く之を全國に波及せしめ一般の改良を計るハ敢て難きにあらさるへし今日上等社會に行るゝ洋裝ハ美術上如何に關らす衛生上の利害を問ハす漫に金錢を抛ちて可成丈西洋の風を學ハんとするにあり假令ハ直線より弧線ハ美麗なれハ婦人の脇の下より腰の邊まて一直線ならんより弓の形に見ゆるハ自然天賦の美といふ可きにコールセットを用ひて胸部を〆め故言と直線に爲し血液巡環を妨くるも厭すキッドの手袋を用ひて上より金環を約しつる弊害に陷りたり夫ハ數多の侍女に扶起られ踉々蹣々として嬌て力なく夢の浮き世の浮橋渡るハいと危きものなるに醉るか如く睡るか如く家中の庶務も差圖せす賓客の前にてハ一言の談話も爲し得ぬ雛人形の奥樣たらんにハ左程不都合ハあるましけれと家令も家扶も奥樣も一身に負擔しつる活潑有爲の婦人か斯る裝飾を爲したらんにハ非常に究屈を感せしむるに至ぬへしされハ中等社會に行るゝ洋裝ハ全く混合と繁雜の美を一洗して身躰の動作に究屈を與へす單一の美を採て之を飾り淡薄にして清潔なること瓶裏の水仙花の如く裝成すへきなり夫ハ余か言る如く胃須頓婦人の衣裳にして華麗ならす地味ならす活潑にして美しきこと冬至梅の雪に咲へる風情あり斯してこそ社會一般に必用なる衣裳にしてハフマン夫人の言る如く泰西の時樣を折衷して日本の新樣を造成せるものなり

余ハ今迄單一と繁雜の美を餘り永く說きたれハ是より相伴の美麗の因て來る所以を考んと思ふなり凡て物躰ハ二種の性質を備へたるものなり溫冷臭味物の躰に觸れ或ハ其に接近する人の感覺より發生する如く我か眼にて視る所の金の指環に黃なり胸を飾る薔薇に紅なりとするハ物躰と視覺者の間に發生する色なりこれを乙の性質と稱ふ又視覺者の有無に關らす物躰に顯れたる形狀延長固實の如き之を甲の性質といふされハ美麗ハ甲の性質に屬するか又乙の性質なるか頓んと決定に苦むもの丶如しドクトル、チ、ビーアチーの說にハ色ハ物躰に粘

着するものにあらす光線によりて視覺者の眼底に注ぐ所の返射なり各の物躰其の質を異にせるゆへ異なる光線を受けて各自の返射を爲すものなり然れとも物質も光線も視覺者の眼底に成立つものにあらされは物も色も外部より眼底に入り來る事は明なりといへり今外部に存在する物躰と色とを見ると同時に美麗を視覺するは疑ふへからざる事實なり色は乙の性質に屬するものなれは視者と物躰の間に顯るれと美麗は其色を見るによりて動きたる感慟の上に生ずるものなり莊子か毛嬙麗姫は人の愛する所なれと魚は之を見れは深藏し鳥は之を見れは高飛すといへり夫は如何に艶麗なる婦人にても感覺なき鳥魚の情に美麗を覺へしむる能されはなりこゝに一瓶の花草あり心うつろふまてに咲初めたり甲は其色と形を賞するも乙は全く之に反せり楚王は細腰を好むも西洋人は肥大にして蜂腰ある婦人を愛慕せり故に詩人の戯に美麗は愛戀さるゝ人に屬せすして愛慕する人の眼底に存すといへるも亦無理ならさる言なり

相伴の美麗は視覺者によりて醜美を異にするものにあらす夫は眞正の趣味あるものにして人々の擧て美麗を感する所のものなり婦人の顏容は眉目口鼻各自に其の美を顯し加之色の美麗を添へたれは美術上より之を評しても甚美しき形といふへし左れと最上の美麗はこゝにあらすして天性に近き仁愛平和忍耐善良温柔撙節の胸中にありて其光輝の自然と外形に發表るゝにあるなり羞花閉月の姿容ありといへとも知識を發達せしむる敎育に乏しく清潔節義の行爲に顯るゝ事なく温和善良の外貌に溢るゝことなくんは何そ眞正の美人とするに足らんやパウロか宜に合ふ衣にて自ら飾り髮を編ことゝ金と眞珠と價貴き衣を以て壯飾とせす善行を以て壯飾とせよ」といへるは内部よりして外部を飾る相伴の美麗こそ婦人の姿容に最も合ひたる衣なり形骸は精靈の居室なれは内に住る主翁の醜美によりて外見を異にするものなり板額の姿容美ならすといへとも勇あり義あるを以て芳しき名を後にとゝめ加賀の千代か一抱へある柳の如く肥滿したるも才藻に富るを以て衆人に賞擧せらるゝ雪かと見ゆる吉野山の梅に入にし人の跡を慕し靜は賤しき白柏子なれと其貞操節義は猛き壯夫を耻しめたり

○古來の禮式を陳て改良一案に及ぶ　佐藤定介

孰れの邦國も、往古穴居巣棲の時代にありては、別に是れと定まれる、禮式のなきは勿論なり、只貴紳傑人を見る時は、跪坐して敬服の意を示す、是れ皆な自身を保護せんとするより、

發する事にして、禮儀と云ハんよりは、むしろ恐懼心を表するわざとこそ云ふべけれ、我邦よても紀元前にありては、坐禮立禮いづれなりしや知るべからぬど、貴人を待遇するに、絶疊なとを幾重にも重ぬるを以て、禮とせしとあれば、或ハ坐禮なりしやもはかり難し、しかし是れ亦一般の事とも覺えず、されば當時ハ定まれる式なしといふぞ穩かなる、日本紀によりて見れば、孝德天武の二朝ハ、立禮と定められたるを、持統の朝以下ハ、立禮をも跪禮をも、並び用ひられたるさまあり、當時は既に儒佛二敎の渡來あるを以て、日本固有の習慣と、かの渡來の習慣と、相混和して一種の風俗を生せしとは、啻に禮式のみにはあらず、百般の事皆然らざるはなし、斯く孝德天武の兩朝に、立禮と定められたりしを、坐禮のみ行なはれて、立禮却つてすたれ、帝王の貴きより、公卿武士に至るまで、跪坐するを以て、禮とするに至りしは、吾人の痛歎に堪へざる所なり、就中、武家ハ足利氏巳來儀容式目を定め、多少の改革ありしも、所謂小笠原流を以て、上下禮遇の式と爲せしもの丶如し、此の弊延て今日に至たり、男女とも幼少の時、膝を折りて坐するを常とし、之れに違へば父母の呵責を免かれず、又成童に至たり、業をとるにも、坐する事多きを以つて、自から姿制を屈する癖なしとせず、其害は、人身筋骨の組織結搆を妨け、躰格の姿制を頽す事ハ、輿論のゆるす所ろなり、我邦人大概容貌魁梧ならず、西洋人に比してハ勿論、支那人に較ぶるも、或ハ一歩を讓るものあるは、其源因一にして足らざれども、抑亦跪坐禮式の弊風、是が一因たらずんバあらず、苟しくも人種改良に注意する人ハ云ふまでもなく、何人にてもこの惡習を掃ふことを勉めずして可ならんや。

我邦人の姿制、前に傴僂し、膝の關節弛緩し、又殊に鵞鴨脚のおびたゞしき、老人腰曲りの多きハ、皆年來跪坐の惡弊に因るとハ、前に陳べたるが如し、就中、婦人は其姿制萎縮して、發達十分ならざるもの夥しきに似たり、是れ殊に吾人が憂ふる所たり、今外交盛なる時に當り、内にてハ外賓と席を同ふし、外にてハ貴婦人ハ他邦に遊び、外人と交伍せざるべからず、かゝる時にあたりて、婦人ハ殊に容儀を以て一德とするものなるに天然の姿制を萎縮して、行歩蹌踉恰も病客の如き有樣あるハ、外人に對して恥かしき次第なり、都下の婦人ハ、田舍の婦人の衣服の粧飾、或ハ行歩のさまを見て、以て野鄙とし、一見して其のいなかものなるとを知るべし、西

洋人の日本人を見る、尙この感あきか、否更にこれより甚しきものあらん、然れども粧飾の野鄙なるは、之を改むる事易々たるべく、又行歩のさまの見にくきは、暫く忍ぶべしとするも、天然の姿制を毀傷して、魁梧の美貌を失ふの大弊を奈何せん、もとより習慣風俗は、時代によりて變遷し、又各國各々異なるものなれば、決して四角四面の理論を以て、循律すべきものゝあらず、西洋婦人の「コルセット」の如き、支那婦人の狹靴の如き、隨分衛生上に大害あるも、尙之を用ひて怪しまざるものあり、されどかゝる弊習は勉めて改良せざるべからず、若し右等の如き不良のものを準標として、更に便良に進む事を知らざるものあらば、是れ猶世間には強盜さへあれば、竊盜は通例の者なり、之を行ふも不可なしといふにおなじ、いかでかゝる理あらんや。

是に於てか、近來坐禮の弊習を一掃して、國人體勢の改良を謀る論、世に喧すし、是れ實に今日の一急務たり、抑々立禮は、目下乘輿を拜する儀典となり、親王大臣に對する禮式となり、諸學校にも之を用ひたれば、いつれの時いつれの場合にも、不敬違式の恐なきとは、今更いふまでもなし、但し吾人がいふ所ろは、禮儀上より、强ちに坐禮をあしゝと云ふにはあらず、只坐禮は、身體に大害あり、諸病の原因とならん事を患ふるにあり、西洋には坐禮のなきとはもとよりにて、支那にても、叩頭九拜の禮はあれども、平日坐禮の式ありとは覺えず、吾人は我が固有の習慣は何事にまれ、遽かに之を掃はんとするものにはあらず、されどかゝる大害ある事は、いかで之を後來に保存すべきとならんや、宜しく早く日本國外に掃はんと欲するものなり、されど今日直ちに坐禮を廢し、席に坐するを禁ぜんとせば、所謂いふべくして行ふべからざる誹あるべければ、吾人が世人に希望する所は、禮式は唯立つときに行ひて、坐する時は之を行はず、例へば人に遇ひ、人に對する時は、必ず起立して禮を行ふを常とし、閑居の時は、跪坐するも、箕踞するも、敢て妨なしとするにあり、禮式かく定まる時は、おのつから椅子により、又臺上にて、飮食する風儀に移り、知らず識らず、立禮の行はるゝ事とはなりぬべし、世人看よや、躰育充分ならざれば、德育智育は、いかに上達するも、その功を奏すると能はず、又躰育の缺亡するものは、有爲の智識を發揮すること能はざるにあらずや、嗚乎坐禮よ、事小に似て決して小にあらず、一國人身の强弱に關す、人身の强弱は、以て全國製產營業の消長にかゝ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

和文學講義第十回

鈴木弘恭

是れも上の四段用格の續きなるが。今回ハ連用言の事を云べし

佐行四段用格連用言

さて連用言のことも上に委しくいへれバ此所に略す則ち第二の音に運用する押し落し貸し挿し示しなどの類なり。

押し張る	俗オシテハル	落し入る	俗オトシテイル
貸し渡す	俗カシテワタス	挿し挾む	俗サシテハサム
示し云ふ	俗シメシテイフ	成し遂る	俗ナシテトグル
伏し轉ぶ	俗フシテマロブ	乾し修む	俗ホシテヲサム
増し加ふ	俗マシテクハフ	召し寄す	俗メシテヨス

太行四段用格連用言

是れも第二の音に運用する打ち穿ち勝ち立ち放ちなどの類あり

打ち取る	俗ウチテトル	穿ち行く	俗ウガチテユク
勝ち進む	俗カチテスヽム	立ち止る	俗タチテトマル
斷ち切る	俗タチテキル	放ち遣る	俗ハナチテヤル
待ち受く	俗マチテウク	滿ち來る	俗ミチテキタル
持ち出づ	俗モチテイヅ	分ち與ふ	俗ワカチテアタフ

波行四段用格連用言

是れも第二の音に運用する逢ひ云ひ追ひ思ひ買ひなどの類あり

逢ひ見る	俗アヒテミル	云ひ騷ぐ	俗イヒテサワグ
追ひ掛く	俗オヒテカク	思ひ合す	俗オモヒテアハス
買ひ求む	俗カヒテモトム	添ひ伏す	俗ソヒテフス
問ひ聞く	俗トヒテキク	縫ひ付く	俗ヌヒテツク
呼び寄す	俗ヨビテヨス	醉ひ倒る	俗ヱヒテタフル

末行四段用格連用言

是れも第二の音に運用する編み忌み倦み好み住みなどの類あり

編み込む	俗アミテコム	忌み憚る	俗イミテハヾカル
倦み疲る	俗ウミテツカル	好み讀む	俗コノミテヨム
住み捨つ	俗スミテスツ	進み戰ふ	俗スヽミテタヽカフ
摘み採る	俗ツミテトル	飲み干す	俗ノミテホス
止み去る	俗ヤミテサル	讀み始む	俗ヨミテハジム

良行四段用格連用言

是れも第二の音に運用する入り織り送り借り切りなどの類なり

入り交る	俗イリテマジル	織り出す	俗オリテイダス
送り歸る	俗オクリテカヘル	借り用る	俗カリテモチ井ル
切り折る	俗キリテヲル	知り行ふ	俗シリテオコナフ
散り亂る	俗チリテミダル	釣り上ぐ	俗ツリテアグ
作り成す	俗ツクリテナス	降り敷く	俗フリテシク

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

大方は是等の類なり。然れども此の連用言は云居て躰言（名詞）となる格なり云ひ居うと云は。假令は加行ならば。飽きにあく。動きにうごく。書きにかく。開きにきく。咲きにさく。騒ぎにさわぐ。鳴きになく。吹きにふく。焼きにやく。行きにゆくの類。また食ひ飽きをする。身動きもならぬ。讀み書きを好む。夜鳴きをする。雪吹きになやむ。黒焼きになる。道行きをするの類是なり。

佐行ならば。押しにおす。落しにおとす。貸しにかす。挿しにさす。示しにしめす。成しになす。伏しにふす。乾しにほす。増しにます。召しにめすの類。また力押しをする。追ひ落しにあふ。金貸しをする。髪挿しのしな。指し示しの詞。取り成しの人。起き伏しの床。陰乾しにするわら。増しをいふ。召しにまゐるの類是なり。

太行ならば。打ちにうつ。穿ちにうがつ。勝ちにかつ。立ちにたつ。斷ちにたつ。放ちにはなつ。待ちにまつ。満ちにみつ。持ちにもつ。分ちにわかつの類。また太刀打ちをする。堀り穿ちの道。負け勝ちを論ず。居立ちにつけて。切り斷ちをする。明け放ちの戸。立ち待ちの月。汐満ちのをり。受け持ちの生徒。二分ちにするの類是なり。

波行ならば。逢ひにあふ。云ひにいふ。追ひにおふ。思ひにおもふ。買ひにかふ。添ひにそふ。問ひにとふ。縫ひにぬふ。呼びによぶ。酔ひにゑふの類。また忍ひ逢ひをする。もの云ひをする。鳥追ひにゆく。思ひにこもる。買ひにやる。川添ひの柳。問ひに行く。裁ち縫ひをする。呼ひにやる。酔ひよ乗るの類是なり。

末行ならば。編みにあむ。忌みにいむ。倦みにうむ。好みにこのむ。住みにすむ。進みにすゝむ。摘みにつむ。飲みにのむ。止みにやむ。讀みによむの類。またかた編みにするもの。忌みにこもる。物倦みをする。物好みをする。獨り住みにて。進みも知らず。若菜摘みにいづ。酒飲みに行く。唯止みに思ひやみぬ。書讀みにくるの類是なり。

良行ならば。入りにいる。織りにおる。送りにおくる。借りにかる。切りよきる。知りにしる。散りにちる。釣りにつる。作りにつくる。降りにふるの類。また這入りの門。はや織りの絹。見送りに行く。物借りに遣る。大切りにきる。もの知りの人。散りのまがひ。釣りの糸。玉作りに備ふ。雪降りに歸るの類是なり。

すべて是等の詞はいづれも第二の音に運用したるものにて連用言なるをいひ居て躰言としたる格なり。なほいはゞ霞霧などいふ名詞も。もとは動詞より出たる詞にて。霞は末行四段用格のかすまむかすみかすむかすめと運用する第二の音連用言を云ひ居ゑたる詞にて此所と同格なり。又霧も良行四段用格のきらむきりきるきれと運用する第二の音連用言を云ひ居ゑたる詞にて。是亦此所と同格なり。此の類なほ多し。注意して知るべし。

東京京橋區日吉町八番地女學雜誌社
持主編輯 巖本善治
印刷 森田[illegible]

り、更に富國强兵の大計に關す、何ぞたゞ外貌の醜美のみならんや、實にゆるかせにすべからざる事にこそ。

○家内の衛生（第二）　坪井二郎述

第一。家の中の空氣のヿに就て述べますとき。先づ空氣の必要を一寸述べますが、抑も空氣と申すものは、我等に取つてハ一番だいじなもので、空氣ハ地球上何處らでもありまして、家の内外を問はず斷へず之を吸て亦出します、丁度魚が水を飲だり出したりするのと同じヿです、空氣の必要なる證據は米や其他の食物より遙に入用でありまして、我々が食物を取るのは、一日中僅か三度でありますが、空氣を取るのは、遙に之に越えまして、一分時間に十七八回で、二十四時間には二万三千回程でありまして、其量は四十九石五斗（酒樽一二四個）程でありますから、丁度三度の食事の量よりも三千倍位であります。

如斯多量の空氣を取りましても、我々は少しも知らずに居りますが、これは通常空氣が見へ無ひからであります、然し今口を閉じ鼻を閉じますと、暫時にして忽ち苦しくなりますから、之れで何か吸ふ則はち空氣を吸ふと云ふヿが確かでありまして、何にも無ければ、口を塞ようが、鼻を摘もうが、別に變りが無ひ筈ですから、之で空氣のあると云ふヿが能くわかるではありませんか。

そこで、今人が家の中にありましても、矢張これだけ多くの量の空氣がいりますが、少さな部屋の中に閉ちこもつて居るヿがありまして、迚も今云ふた樣な多量の空氣を吸はうとしても、其道が無ひ樣でありますが、决してそうではなく、矢張それだけの空氣は必す取て居ります、なぜと云ふに、家の壁にしろ、障子にしろ、皆能く空氣を通しますから、茲より空氣は自在に出入を致します、然し家の中にあると、外にあるとは、大に差ふ所があります、それは何であるかと云ふに、我々は不斷空氣を取ります（即ち吸氣）が其代りに「イキ」を出します、偖此の出す所の空氣は、我々の身躰に役にたゝぬ、身に取つて毒なもので、之を出す「イキ」によつて身躰より遠ざけるのであります、外でありますと廣いから此出した「イキ」は直に四方に散てしまいますが、閉籠たる部屋でありますと、中々此「イキ」が出惡ふ御座ります、中々障子の隙位から出位では充分でなく、遂には一度出た所の惡ひ「イキ」を再ひ吸はなければなりませぬ、之が大變に毒な者でありますから、可成注意して、戸障子を明け、空氣の能出入する樣にし

なければなりませぬ、殊に大事なのは夜でありまして、夜は悉く戸障子を閉切まして、晝間外に働いて居た人まで、内に寐まするから、益す空氣が悪くなります、故に夜る寢る所の部屋は、可成廣く、且「ランプ」等を明けて、空氣の通ずる様に氣を附けねばなりませぬ。

人の出す「イキ」の外に、室内の空氣を悪しくするものが種〻あります。即ち、火鉢、ランプ、蠟燭等の燃へるときは、皆な人に毒な物か出來て、室内の空氣に混ります、西洋造りの家でありまするど「ストーヴ」を焚きますが、これは燃へる煙りや又毒なものは皆筒を傳ふて家の外へ出てしまひますから、室内の空氣を不潔にするとが少なふありますが、日本の火鉢でありますと、煙出しの筒がありませんから、出る所のものは、皆室内の空氣に混りますから、知らず〱之を吸ふて大なる害があります、殊に、火鉢からは酸化炭素と云て、最恐るべきものが發生します、此の最毒なものは、炭の燃へ方がよくないと、愈餘計に出來まする、故にとりわけ炬燵の樣に、蒲團をかぶせ、炭の燃へ方を悪くすると、多分の酸化炭素が發生致します。故に冬みなり、蒲團をかぶり、炬燵や「アンカ」の中に寢る時は、實に非常な毒なもので、翌朝になると、頭痛が致します、餘程注意しなければなりませぬ、殊に小供などを寢かすときは、是から追〻寒むくなりますから、益す之に御注意を願ひます。

今まで御話し致しました所は、空氣のことで御座りまするが、まだ此外に氣を附けなければならぬのは、太陽の光線でありまして、家の中には、可成能く光が入らなければなりません。光の入らぬ内は、實に陰氣なもので、病人が實に多くあります、西洋の譬に、光の入らぬ家には、醫者がはいると言ふ位のもので、光は實に大切なものであります、家の中が薄暗らくありまするど、殊に書見などをするに眼を勞らし、子供衆などの近眼の原因となりますから、書物を讀むには、可成明るい部屋で讀まなければなりませぬ。其外光の入ることが不充分でありまするど、室内み濕氣を持ます、此濕氣は大變に毒なもので、これが爲に種々な病が起ることがあります。總躰家の中は成丈乾いて居なければなりませぬ、夫でありますから、家を建るときには、可成南向か東向の日當りの善き處にしなければなりませぬ。

此外種〻御話し致すとがありますが、餘り長くなりますから、今日は先づこれまでに致して置きます。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

叢話

○爾曹互に相愛すべし（其二）

女學雜誌編者 竹中松三 演述筆記

眞に若し吾が心に愛と云ふものが在りました時には假令ひ實際は不清潔である所のものを見ましても之を嫌に思ふが爲めに苦痛するの情は自づからに減ずるものです。諺にアバタもエクボに見ゆると申すことが在りますが之は何もアバタが急に變化してエクボに見へると云ふの意味では無らう、即ち若し其人を愛する所の思ひが在たる時には假令ひ他目ゞは甚だ醜くかるべき痘瘡の痕も左程とは思ハれず決句ひいき風に色く々の割引きを爲て遂に之をエクボの愛らしい顏付にても在る歟の如く認たむると云ふの意味でありませう。愛と云へるものが物の現象を變化するハ即はち此類でありまするから此の不幸不仕合せの多い世の中に立つて常も思を平らかにして安心平和であらんとするには先づ此の愛あるものを自身の心に養うが肝腎であらうかと考へます。

私は未だ子を持つたことが在ませんから隨つて親が子を愛するの情合を精しうは知りませんが、既に吾が兩親の限りなき御愛育を受けましたから之を推して考へますると畧ぼ父母が其兒を愛せらるゝの情を察し得ることが出來ることです。實に斯計り僞多き世の中に子を思ふのみぞ誠なりけりと申しまする通り親が其生の子に於ける如き眞實の愛は人間界に亦と在りますまいかと思ハるゝです。左れば斯程に厚き愛情を保ち玉ふ所ろの父母に取つては他人ならバ迚も耐へ忍ぶ事の出來ない程の困難をも其子供の爲めに喜んで盡さるゝことで而も其心に少しも之を苦に爲ないのみか例令ひ之を苦にせらるゝとも其苦にすることをバ反つて一種の樂しみに爲す程のものであります。先づ考へて御覽なさい尿糞は隨分清からん者でありませう然し親の目には之を少しも不潔あるものとは致しません、夜も碌々眠らず日夜の差別なく之を保護しまするは隨分面倒なることでありませう然し親の心にハ之を少しも煩はしひとは思ひません、稍や人と成りましてから病氣にも懸ります遊びも致します學校へ遣ても怠けることがあります何如程敎導しても往々放蕩をすることもあります是等は隨分苦痛でもあり心配でもあり又た腹の立つことでもありませう然し親の心にハ之を少しも厭ひません苦しみません見棄てません彌よ以て之を介抱し之を敎導して宜しきに至らせんとすることであります。凡そ如此く一人の子供を育て上げるに付ては無論幾千万の厄介苦勞が在りまする所ろに其親たるものハ決して之を厄介苦勞

とせず例令ひ鬼子母神ほどの子があつても尚ほ更らに子供の多かれと祈り心中明らかに其子の爲に苦痛する摸樣の無いは何如なる故でありませう。子供の屎糞は臭くないでせう乎、子供を持つた時は眠くないでせう乎、又子供の病氣放蕩は心配で無いのでありませう乎、決して〱左樣では無い、たゞ其親に愛と云ふ一つの元素が心の中に充滿して居りまするから何如ほどに臭いものでも之を臭いと思はず能く耐へ忍ぶとが出來るので其他何如ほどの苦勞をしても其の苦勞を爲て遣るとが即はち彼を愛するの情を滿足するの方便と爲るとで必竟かの愛と云ふもの丶働きに由つて万事万端の苦しみを拭ひ消すとであります。

左樣あらば此の世の中に立つて一生を送りまする時にも若し愛心を十分にして只管ら世人の爲に力を盡すと思ひましたとあらば何如ほどの心配苦勞も即はち最と喜ばしく之を耐ゆるとが出來るではありませんか平和安心の地位を得て天下を渡り行くには恐らく此の方を行ふより致し方が無いと考へるです。若しも此の世に不幸不平の無い所ろが在りましたらば其處ろに往いて平和が得られませう、又若し此世に善人充滿して悪人悉く消滅しましたらば其時こそ吾々が安心喜樂するとが出來ませう、然し唐虞の三代は漢學者の夢で黄金世界は中々實際に見るとが出來ません以上は即はち此世に不幸不平の無い所ろは無く亦た悪人の居らん時とては有りますまい、スルト何時まで立ちましても吾々が眞正の平和安心を得るとが出來ますまいと思はれませうが此際吾が心に若し愛と云ふものを隆んに起したらば先方は元の儘で在つても吾々が之を感ずる所ろが一變いたしますから則はち苦勞心配を爲すうちにも喜び樂しむとを得るの安心平和が在るでありませう。

故に山林に逃れたとて決して憂き事を聞かぬ譯には參りません寧ろ成べく多く憂き事を聞て之が爲に奔走盡力する間だに自から喜ぶとを得るの覺悟が得たい者で、又何如ほど世の中の富貴利達を求めたりとも之を以て心を滿足するほどの事は迚も得らる丶もので無いから一簞の食一瓢の飲で不潔極まる九尺二間の小屋に在つても世を愛し人を愛して公けの事に奔走し之に由て心中の幸福を得ると云ふ如き嗜なみが得たい者であります。心に愛があるときは即はち此の覺悟此の嗜なみが出來て參りますから山林に逃れて世を棄つるような不信切の事をせず又た富貴名譽の奴隷と爲つて豚の如く一身利己の事ばかりに心配するともせず朝たより夕べに至るまで此の歡

惡なる此の不幸多き此の不しだら極まり無き活世界に於てだも能く安んじて國家の利益を擧るヿに盡力するヿが出來ます即はち其行を俗にして其心を仙にし萬業營々たる市の眞中に於て獨り能く大隱者たるの資格を有ち得るものでありませう文明社會の活人物と爲つて而かも思ひを淸らかにし心を高尙にするとは全く玆の處を申すものであります。

心に愛情が充滿致しまするど斯程に一身の安心平和が得られまするが元來愛の德たる廣大無邊にして此外萬づの善行美德は悉く此の愛の隆んなるより起るものであるです。今ま概ね愛の心よりして起り來る諸々の德を申しまするど先づ愛あるの人は能く物事に忍びまする、人の益を圖りて己れの事を後に致しまする、嫉むヿが無く誇るヿが無く傲り驕ぶるヿが無く人に對して失敬非禮を行ふヿがありません、又た己れの利を求るヿがなく、輕々しく怒るようなこともなく、人に惡きヿの在つたるを喜ぶようなことは無論ありません、其上平常眞理を喜んで不義を惡み、何事によらず、能く包容して、能信じ能く希望せらるゝヿでありませう。故に所謂る仁義禮智忠信孝悌の諸德は一に此の愛と云へる心が圓滿しましたらば悉く容易に行ひ得らるゝ者で、若し又愛なくば假令ひ我がすべての所有を施し又た焚るゝ爲に我身を與ふるとも益なく何如に立派なる言葉を吐くとも殆んど鳴る銅や響く鐃の如きものでありませう。故に爾曹互に相愛すべしとの一句は吾々へ第一の敎へで親子互に愛し夫婦互に愛し兄弟姉妹互に愛し國民相愛し萬國民相互に愛して則はち此の不完全なる世の中に幸福なる世界を造り出す筈であります。

○明治二十年女學進步の景況

當年間に於て女學進步の外面に現はれたる出來事を左に集錄す玆に主として女學校女學會をのみ揭ぐるものは去年末に於て明治十九年の女學概評を論ずる時にも相述べたる如く此の二つの者は尤も陽はに立現はるゝ所の現象にして且つ以て尤も容易く女學の進步を示すに足るか故なり思ふに此よ依て婦人の地位物躰の進度を卜するに於て多少の助けあるべし

●記事

一月　皇后陛下は東京有志共立病院を御眷顧の下に置かせられて之を東京慈惠醫院と改稱すべき旨御沙汰あり一品親王有栖川宮御息所該院の幹事長と爲らせらる

三月　皇后陛下は金剛石及び水は器にの御咏を華族女學校生徒に下し賜へり女學生が學を勵み友を擇むの大切なるよしを論じ玉ふ天下御咏を傳唱し外國新聞雜誌亦た之を譯出せり

四月警視廳の達しを以て娼妓出稼規則其外に改正を加へられ女子保護の點に於て少さか厚きを加へたるが如し
十一月十七日以降三日東京鹿鳴館に於て第三回婦人慈善會の慈善市を開かる
十二月十三日　皇后陛下へ露國皇后陛下より捧呈ありたる親書及び勲章を請けさせ玉ふ

●略表（當年中に創設したるもの但し本號掲載の分を除く）

●佛語女學校	一月開校	東京下六番町
牛込英和學校女子部	一月開校	東京牛込
婦人洋服裁縫女學校	二月開校	東京京橋
洋服裁縫女學校	二月開校	東京富士見町
女子專門學校	一月開校	同　小石川
女工練習會	二月、、	同　山下町
英學館女子部	三月、、	同　仲猿樂町
成立學舍女子部	四月一日	同　駿ケ臺
女子裁縫學校	四月	同　兜町
東京女子裁縫傳習所	四月	同　本郷東竹町
女子洋服裁縫傳習會	五月	同　蠣殻町
東京女學	六月	同　兼房町
女範學校	八月	同　麹町
禮美女學校	八月	同　本郷
女子佛學校	八月	同　猿樂町
高等學校	十月	同　三番町
●大阪一致女學校	一月十日開校	大阪
西京私立女學校	一月開校	西京
私立三重女學校	一月十五日開校	三重
新潟英和女學校	四月開校	新潟
西京看病婦女學校	四月	西京
大津公立女學校	四月	大津
愛知女學校	五月	名古屋
靜岡女學校	五月	靜岡
札幌女子職業學校	七月十日	札幌
私立女子手藝學校	九月一日	神戸
ステルジイス女學校	九月	長崎
堺區立女學校	九月	大阪堺
山口女學校	九月	山口
清揚女學校	九月	前橋
愛知女學校	九月	名古屋
鹿兒島女子小學	九月	鹿兒島
高知縣尋常中學校女子部	十月	高知
愛媛縣女學校	十一月五日	伊豫松山
洋服裁縫教授所	十一月	近江今宿村
洋服裁縫所	十二月	駿州沼津
●淑女會	一月創設	東京
牛込婦人會	二月、、	、、
日本音樂會	三月創設	、、
海軍慈惠會	三月一日開會	、、
小石川婦人談話會	三月開會	、、
東京婦人教育談話會	右談話會の一變したるもの	
婦人工藝會	三月開會	、、
和樂會	四月、、	、、
大日本婦人文章改良會	四月、、	、、
東京唱歌會	[illegible]	、、
大日本私立婦人衛生會	八月	、、
通俗婦人談話會	八月	、、
淑女以文會	十月	同
貴婦人法話會	十一月	同
篤志看護婦人會	十一月	同
●婦人談話會	一月比創設	白石
婦人勸業會	一月比、、	武州船橋
兵庫福原町女工場	一月二日開場	兵庫
大阪婦人獎業會	二月一日開會	大阪
婦人協會	二月創設	宇都宮
婦人攻藝會	一月、、	仙臺
廣島婦人協會	一月、、	廣島
藤岡婦人會	二月、、	上州藤岡
大阪相愛會	二月、、	大阪
大阪婦人學習會	三月、、	同
三池婦人協會	二月、、	筑後三池
館林婦人會	二月、、	上州館林
京都婦人會	三月、、	西京
婦人教育改良懇親會	三月、、	大阪
千葉婦人懇親會	三月、、	千葉

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

久留米婦人協會	三月十三日創設	久留米
小倉婦人協會	三月、、	小倉
京都婦人慈善會	三月五日、、	西京
新潟婦人懇親會	三月十一日、、	新潟
婦人改良會	三月、、	掛川
靑森婦人會	三月五日	靑森
高崎女子之友	三月卅一日	高崎
婦人割烹會	四月	西京
龜山女工場	四月	伊勢龜山
裁縫專修所	四月	信濃北小谷村
女子讀學會	四月	大坂
婦人共發會	四月	名古屋
大坂婦人慈善會	四月	大坂
婦人交誼會	四月	靜岡
矯風志確會	四月三日	筑前杵築村
京都婦人金蘭會	四月十六日	西京
京都婦人學業奬勵會	五月初	同
栃木婦人協會	四月十二日	栃木
久居女工場	五月	近江久居
埼玉縣婦人會	五月	埼玉
紋鼈婦人會	五月四日	北海道膽振の紋鼈
妓風改良會	六月	越前武生
婦人茶話會	七月	新潟尋常師範學校
德島婦人慈善會	七月	德島
盛岡婦人會	七月	盛岡
熊本婦人談話會	八月	熊本
仙台婦人矯風會	八月	仙台
江浦婦人協會	八月	筑後三池江浦村
埼玉婦人協會	八月	埼玉
栗原婦人會	八月	陸前栗原
女子手藝會	八月	播津尾崎
上田女子談話會	八月	信州上田
桃花女工場	八月	西京
濱松婦人交際會	八月	濱松
婦人談話會	八月	高知
婦人同志會	八月	和歌山
京都婦人共勵會	九月	西京
高知婦人會	九月	高知
產婆會	九月	近江伊香西淺井
慈善學會	十月	上州助戶村
富山婦人交際會	十月	富山
婦人會	十月	近江大津
音樂演習會	十月	高知
產婆講習所	十月	西京
松山婦人會	十月	松山
大津婦人慈善會	十月	大津
金澤婦人慈善會	十月	金澤
橫濱婦人交際會	十月	橫濱
八王子女工場	十一月	武州八王子
女學講談會	十一月	三重
婦人手工講習會	十二月	下野佐野
女子育英會	十二月	仙台
熊本婦人矯風會	十二月	熊本

○クリスマスの事

明廿五日はクリスマスと申し西洋文明の國々にては何人も職業を休みて戸々に歡樂祝賀することあり、其由縁を考うるに是は一千八百八十餘年の昔し耶蘇基督と云へる神の御子がユダヤのベツレヘムと云へる片田舍に生れ後ち遂に十字架に掛けられて無殘の死を受けられたる迄で一生の言行たゞ〳〵人の罪を救ひて人間を正しきに導かんとの仁愛に出てたるものから今まは基督信徒と申して之を尊信する人全世界に莫大なり故に此の信徒は云ふに及ばず例令ひ未だ明らかに信者とれ申さゝる輩らに至るまでも皆な此の基督の御降誕を祝し其の生れ出で玉へるは人世の一大事なりと承知して扨ては西暦を

も之に由て紀元し又た彼のクリスマスと申す祝ひ日をも定めて其の誕生日を賀する義なり即はち右クリスマスとは基督降誕祝日と云へる譯にて必竟之を祝し之を紀念せんが爲めに年〳〵明廿五日を以て其祭日とは致すとなり。

西洋文明國にて右クリスマスに對するの人情は恰かも我國人が正月の元日に於けるが如くなり先づ會堂に集つて讃美祈禱し人々相出で遇ふ毎にお目出度クリスマスと禮すると丁度新年を賀するに似たり斯て一家族は家族にて、學校は學校にて、其外相知れる友人供は亦た其友人仲間にて、互に相集つて福引遊樂の如きとを爲し一日を淸潔愉快に樂しみ暮らすものなり。而して父母は其子へ、子は其父母へ、兄弟姉妹は相互ひに、友人知己も亦た無論相應に遣ひ物をして一年中の厚情を謝し或は心中の愛を寄するとなり。當今万事西洋の風俗を輸入する間だに於て固より好ましからぬ新風俗も尠らず吾人は之を見る毎に厭應なく反對の意見を申出で丶少しも容謝せざるとなるが此のクリスマスの祭式の如きは速かに我國に行なはらせて毫も差支なきのみか外人との交際に於ても都合の宜しきと尠かるまじと思へり。東京にても高等師範學校の女子部を第一として從來此の式を行はざりし諸の女學校にても今年は多く之を執行はる丶と云へり蓋し吾人等と同様の考へを有せらる丶ものと信じて密かに滿足に覺ゆる所ろあり。故に吾人も亦た今まクリスマス祝賀の寸志としてカード一葉を呈し遙かに讀者諸君をことほぎ奉ると云ふ。

● 佳傳

○フロラ、マクドナルドの小傳　（其二）

扨てもキングスボルグのアレキサンダーは直ちに濱に到りて王子チヤアレスを迎へ奉り約の如くキングスボルグへと送り奉りたり時にフロラは尙マルガルトの家に在りて將官達と山〳〵の物語に時を移せしが時分を計りて別を告げキルキボストのマクドナルド夫人及其僕婢と共に五頭の馬首を列ねつ丶急ぐまゝに間もなく王子の一行に近付きたりフロラは事を知らぬ婢等が機密を漏さん恐もあれば一歩も早く此の塲を過ぎんと頻りに鞭を加へしにはや少かの間に迫り來れりト見るより婢は彼の王子を眺め嗚呼や脊の高き女なる哉斯る奇有の婦人は恐らくアイランド生れの女にやあらんさなくば女の衣裳を着た男なるべしと」言ふを聞きたるフロラが心刺る丶が如き思ありしならん其後マクドナルド夫人の一行に別れ間もなく

王子に逐ひ着きてキングスボルグの家に着きしは其夜十一時頃なりき
稍ありて晩餐も終へたれバ家の夫人ハフロラに向ひ今日までの來歴出來事を尋ねて水夫の事をも承知したるが急に驚きてヤヽ彼の水夫を還し玉ひしとな后日若しも彼等が捕へられなば王子の前途も覺束なしと嘆きたるにフロラも實に然なりと思ひて急に王子が御衣裳を改め參らせたりけり
其翌日ボルトリーに向ひて出立せしにキングスボルグも從がひたりしが途中便宜の折をみて王子に齎す所の男裝一具差出し御召換を願ひ出たりソハ災を避けん爲めと知らる夫れより王子ハ僕マッケッガンのみを從へて其道を急ぎフロラハ獨り馬に鞭ちて他の道を乘しが何れもポルトリーの村に到れバドナルド、ロイハ既に同志を糾合して待ち居たる事なれバ直よ王子を奉躰してラサリー嶋へと護送し奉りたれハフロラハ今ハ我身に用なしと故郷さして歸りたり此より王子が來歴ハ事長々しけれど本傳に關なけれハ只其後三ケ月幸にフランス國へ遁れ玉ひしとのみ書して筆を省かん
斯くもフロラハ微弱なる一女子經驗少き一處女にして百虎眼を瞋らし万鷲爪を磨くの中に在りて寸鐵を用ひず一兵を藉らず一身能く王子を擁護し奉りたる段其豪膽と智計ハ實よ一世の偉業なるに自らハ物の數とも知らず只其本分を盡せるのみと思ひたれバ人に誇るの色もなく且つハ事の漏れん事を慮り其母にだも話さゞりき
然るに彼のウイストに在る水夫の捕縛より災烟燃へ起りてキングスボルグにまで連累し殘酷苛責の末無期徒刑に處せられ其身も亦大將マクリヲトより召を受たり去れハフロラハ親友故戚の止むるにも拘らず志を決して途に就きしが途中にして雜兵原の爲に捕へられ軍艦へと送れたりゼ子ラル、カンプルハ大に不愍を加へアルマダルに上陸して母に暇を告しめたり其より南を指して航する程に間もなくリースの港に着き茲に止る二ケ月餘其間上陸こそハ許さね見舞を受る勝手ありとありけれハフロラが名を慕ひて訪ひ來るもの日に幾百人其贈物さへも積みて山をなすに至れり中にも最もフロラか心を喜ばせしハ聖書と編物道具なりしとかや斯りにけれハさしも殘忍粗暴の聞ある武官水夫に至るまで皆ゝフロラを譽て手厚く取扱ひたりしが司令長官スミスの如きハ新たよ美服下着を調へてこれを贈り船長ナウレルの如きハ万づ親切に待して食事を共にするに至れり其後ロンドンの都に着 暫く某の家に禁

錮されしも其待遇ハ住客を待するか如し遂に一審問を蒙らすして無罪放免と沙汰ありけるが其名愈高く日々の新聞ハ其名を傳當時の詩人ハ其業を歌たりしに客舍門外市をなし車馬絡繹として肩摩轂撃の雜沓あり其時有志者の差出せし義捐金の高尙千五百ドルの多きありしといふ

此後故鄕スカイに歸り彼のキングスボルグが遺子アレキサンダー、マクドナルドに嫁し和樂安康に暮せしが其の昔王子が此家に宿り玉へる事抔思ひ出づる度々にて忘れ難かりけれバ其床を紀念の記しとして其後アメリカあるサウスカロライナに移りし時も尙これを携へしとあんいひ傳ふサテ又其殖民の目的ハ稍や思ひ違ふ處ありければ遂に再び其本國に歸り一千七百九十年の三月五日七十歳の天壽を以て心安く眠に就きたり殘る所の五子二女何れも有爲の人々にて母の榮を加ふとなん

○ヲリムピア、モラタ(Olympia Morata)小傳

ヲリムピア、モラタの名ハ彼の以太利文學振興の時代に顯はれ來りて名譽の紅輝を放ち文華の社會を射しが三百年後の今日も尙赫々として餘光あり吾人ハ既に其名によりて其績を伴ひ來るを得べしと雖尙詳かに其跡を知らんと欲せバ玆に一冊の遺稿あり試みに之れを播き見るにラチンの小文數章、譯文、小說　二篇、ラチン會話　二篇、グリーキ文章　二三章、と其他ハ皆手簡の輯集にて凡て四十八通あり内一通はグリーキ語二通ハ以太利語殘り四十五通ハラチン語にして以上上卷をなし下卷には友人よりの頌詞と其書簡を充つ就中書簡最も多きハケリヲ、シコンド、クリオと往復せしものなり蓋し氏ハ當時文學社會に有名なる大家にてヲリムピアが最も親しき友人と聞こゆが其遺稿も亦氏の出版に係ると云ふ

余ハ此の書を一見して直ちに其價なきを知り大に望を失ひこれ只纎手の遺墨のみ又何ぞ讀むを須ひんやと後へに投げやりしが又熟ら之れを弄味すれバ何んぞ計らんこれ正しく愛と愛と誠をもて跳動する一箇の活人ならんとハ請ふ君試みにこれを開き見よ其文の閑雅なる其言の氣慨ある必す爾が目に愛の微光を認め爾の耳に有情の聲を聞かん何となれば此書ハ芳しく且榮ある名を吾人に傳達するの傳話器あれバあり何となれば此書ハ古往近來社會の劇場に立ちて吾人を益し吾人を羨やましむる嘉言善行を集めし數十百人の傳記あれバなり否一人の傳記なれバあり其傳ハ年若くして希望と幸福を以て笑ふ輝ぐ朝日の如く中ごろ憂の雲に暫く面を隱せしも曾て世塵に暗

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

らませられず遂に紅霞を山頭に殘し斜光を天外に放ちて西天に沒せしチリムピア其人の傳記あれバなり然れば余ハ今チリムピアの傳記を述べんとするに其材料を其の書の中に取るの必用と義務ある事を感せり

チリムピアハ一千五百二十六年(三百六十一年前)以太利あるフエールラーレに生る其時以太利國ハ文學振興の大潮注き來りて全地を濕ふし智識を開發し才力を啓舒する頗る多くそが中にもフエールラーレハ其中心に當りたれバ浪濤の勢ひ一入盛にして其地を統御すエステー家に在りても大に文學を奬勵し大學よ秀才俊士を招く甚だ急ありチリムピアが父フェールピチ、ピレクリノ、モラタは博學達識の聞へありたれハ亦招がれて其故郷マンターを立ち出でフエールラーレに至りアルホンソ公爵の教官とあり大學教授の任を兼ねチリムピアの生れし時ハ既に大學の中よて高位を占め其家ハ博士學士の鬪文論議の塲となりさあがら咲き香ふ文の林とはなりぬチリムピアハ天性詞藻に富みし身の而かもソが園裡の空氣を呼吸す恰かも歌神モーゼスの懷に育てらるゝ如く又彼のデニソン詩宗のエルノールを歌ひしが如し

　爾が黒瞳ハ開きもせで
　御國の空氣に觸れもせず
　幅最と廣き爾か額皺波よせず
　樫の森より吹く風に
　然れど爾が育てらる國ハ淸けき土地にして
　輝く日影鮮かに映る木の影水を掬つ

吾人若しグリーキ、ローマの文學を東方神女の才力にして顯はれてボルヂル(紀元前七十年ヨリ十九年マデ生キシ詩人)の思想となりホーマルの感情とありしと云はゞ余は更にチリムピアが爲めに其の續篇を歌わんとす

　可愛さ溢る爾か思想ハ　爾が生る其時に
　潤最と深き流れより　茂る小山の岩間より
　眞珠の具や黃玉の　光り輝ぐ濱邊より
　東の方の神の女が　爾が搖籃を盛らん爲め
　運びしものぞこれエルノール

實にチリムピアハ父が喜の種にして又榮の冠なれバ此の稀有の賜を撫育薫陶せんこそ其が第一の責任と思ひたり然れバ年漸く十二歳既に其名高く當時有名の學者社會に顔出をぞ致たり其中最も聞へたるハシナッピと呼二人の獨逸人とケリチ、カルカクニニと申數學者考古學者及び詩人として高名な

る方なり今彼遺稿を取りてグリーキ文の手狀一通を開くにヲリムピアハチリアン、シナッピよりハグリーキ語を學びしが其進歩の速かなる數月ならずしてグリーキ語を使流暢猶ほラテン語に於けるが如きに至りしといふ次て又醫學を學びしといふ事を見ん又ケリチ、カルカクニは無限の愛情を以て彼の女を敬し常にデロラスの夫人(詩の神)と呼べり氏の手書に最も才學ある貴女よ余今君を祝し且つ君を誡む願くハ君君か全力を文藝に盡し日に日に其業を積まんとを皇天上帝の至愛至らざるなしとハ吾人の信認する所なり豈に獨り婦女子の勉學を禁せんや彼の注意と忍耐を以てするも遂にヅチチマス、アスパシアス、たる能ハずと云ふハこれ只偷安姑息の徒の托言のみ吁吾人か爲めにこの托言を攪破するものハ惟只君が一身を勉學に投つに在るか冀くは君績竿に代ふるに鐵筆を以てし亞麻に代ふるに書籍を以てせよ

この書僅かに數十言に過ぎずと雖電の如く雷の如くヲリムピアが心を刺激し益す勉學の精神を加へしと云ふ何となれハこれ其親しき友の言葉にして且つ敬する學士の勸めなればなり

玆に又ヲリムピアが生涯の新時代とも云ふべきハレニー公爵夫人と聞こへ申す御方殊の外子女の敎育に熱心にましまして其息女にいますアンナの君が爲めに良師を聘し賢傅を招きイタリー語ハ申すに及ばず古代の言葉まで授けんものと只管務められしが學の窓に友なきも定めて淋しかるべしとてヲリムピアを招き入れ姫が學友となし玉ひしことよこそある　(未完)

● 新報

○女子職業學校　同校にては生徒も追々增員するに付來春米國より女敎師を雇聘し又掛員は是迄男子なりしを校長幹事を除くの外受付會計小使に至るまで悉皆婦人にて處理さるゝと云ふ

○看護婦の俸給　東京慈惠院に於ては今度看護婦の俸給を改正し一等看護婦三十圓より見習ひ四圓五十錢まで等級を定めたるよし

○秋田縣橫手　にては近來編物大に流行して知らぬ婦人は稀れなる程なり束髮も廣ろく行なはれ內には洋服を着する方もあるよし又或る有力の一二の婦人か首唱となり婦人會を起さんと盡力中にて賛成者多分ある趣なり

○大日本美術協會　龍池會を擴張し大日本美術協會とし上野公園地內櫻ケ岡に美術品陳列場を建築せらるゝ由にて既に其工事に着手し周圍の樹木を切拂ひ地形に取掛りし趣なるが右建坪ハ二百坪にて別に玉座の間を設け來年の花節までには工事を終り新築落成と共に觀古美術會を開らかるゝ筈なりと

○東京美術學校　同校は嚮に文部省令を以て開設するとなり幹事岡倉覺三氏御雇フェノロサ氏等が專ら校則等の取調をなし略整頓に至りたれば來春早々是非共開校の見込にて其準備を取り急ぎ居ると云ふ

○山口縣赤十字社　原同縣知事、書記官を始じめ其他二三氏發起となり戰時軍人の傷者病者を看護するを目的として今度山口縣赤十字社なるものを創設したるよし

○東京慈惠院　は例年の通り來る廿九日より一月三日迄休業して四日より外來患者へ施療すると云ふ

○改婚　先頃歐洲より歸朝ありし舊尾洲藩主德川義禮君はユニテリヤンの信徒のよしなるが色々世間に噂させし改婚事件は今度愈御親戚方其他の協議により前夫人の妹君と改婚を斷行せらるゝ事に決したる由なり

○結婚　黑田伯の令孃百子は黑川中將の令息と結婚せられたりと

○日本赤十字社總裁　前の博愛社總長小松宮二品親王殿下が御洋行中は有栖川一品宮殿下にて其任を領せられし所今回同殿下の御歸朝ありしに付その舊に復して

殿下を總裁に推撰せり

○神戸の幼稚園女學校　兵庫縣神戸北長狹通幼稚園は内海縣知事の夫人を初め其他の諸氏が首唱者となり神戸區官民の有志者義捐金三千五百圓を以て創設せるものにて此程既に新築落成し去る一日假りに開園式を行ひ爾來入園せるもの三歳以上六歳までの生徒六十餘名の多きに及び全く滿員となり明年春には早々本開園式を執行する筈にて此程其役員を撰擧したるに園長に小磯吉人氏常議員に佐畑信三、野村致知、矢田績、神中正雄及夫人諸氏が當撰したる由又神戸諏訪山英和女學校は米國某夫人等の設立せるものにて西京の同志者と聯絡を通じ基督教の婦人數名にて教授せられ教育能く行屆きて學生の進歩著るしく頗る評判宜ろしき由なるが目下寄宿生のみにて百餘名となり教場の狹隘を感ずるに至りしを以て先年本國より寄附金六千圓を募集し本年校舍を新築したるも昨今に至り尚ほ多數の入學者を謝絶せし程なるが此上建增の計畫を爲すに付て資金を本國へ募集するは如何と懸念する所より此度は日本人中より千五六百圓丈寄附を仰がんと其周旋人●頻りに奔走中にて最早や七八百圓の寄附金を得たる趣なり

○貸座敷許可の取消願　下總國印幡郡佐倉鏑勒町に貸座敷を設けんとて同所より千葉縣廳へ出願せしが早速許可を得て地所繩張り等に着手せしより近傍町村の人民は大に苦情を唱へ一部營業者の爲に全郡の利害休戚にも關係する遊廓設立の事を此儘默止すべきにあらずとて數千人申合せ停止の件を請願せんとて目下協議中のよし又同郡撰出縣會議員狩野揆一郎同林多一郎同山口鐵之助の三氏は三十九箇町村の重立つもの八十三人の總代として已に去る十九日縣廳へ出頭し公認取消の請願書を差出せし由喜ぶべきことにこそ

○郡馬縣下藤岡婦人會　の景況を同地の友人より報ぜられたれば左に掲ぐ又廿三日に其十九回を開かれし由其模樣は追て報せらるゝ筈なれど入手次第掲載すべし

第十六回（十一月十一日）

一開場、高山社○編物稽古○通信女學講義錄輪講○談話、會員茂木ちよ子、小泉りん子、大塚はつ子、○出席會員三十九名○唱歌稽古

第十七回（十一月廿五日）

一開場、佐々木三郎氏宅○編物稽古○通信女學講義錄輪講○感話、會員齊藤かよ子、奧澤つる子、茂木千代子○演說、當地郡長佐々木三郎氏、氏は中村敬宇先生の同人社卒業生なれど重に宗教上の話なり○出席會員三十四名、入會者新町紡績所長鶴見夫人、警部高山夫人、○唱歌稽古○主事改撰の時に際し選擧したるに佐々木こう子其任に撰ばる

第十八回（十二月九日）

一開場、高山社○編物稽古○談話、會員佐々木こう子、林さた子、鈴木なさ子、日向こう子、茂木ちよ子、小泉りゆう子○演說、靑山英和學校本科生大戶敬次郎氏○通信女學講義錄輪講○茂木平三郎氏木村鐙子小傳を讀む全員涙に咽びてには かに新爲を初じめたり○出席會員三十三名

○新潟女學校　南濱通二番町に建築中なる同校は愈竣工せしに付き去る十七日開校式を施行せらるよし又同校は開校以來は新潟病院の池原氏を招待し毎月五六回宛女子生理學の講義を乞ふことに決定し月謝は一人拾錢宛なりと云ふ

○茨城婦人協會　去る十日上市大町女子講習會場に於て茨城婦人協會の定會を開らかれたり同日は文部省視學官の來縣に際したれば學校教員諸氏には欠席多くして來會員は四十餘人なりし尤も中學校傭雇教師クレメント氏の北堂及夫人にも出席あり扨て席上演說は原田信民氏根本眞顯氏及びクレメント氏の北堂（渡瀨夫人の通辯）田口發氏山田議之助氏の諸氏にして來會員の少なき割合には中々盛會にてありしと云ふ

○婦人役員に撰擧せらる　去る十一日大坂府下中ノ島魚正樓に於て大坂商船會社附屬仲次問屋五十六名が臨時總會を開らき規約書の修正をなし且役員を改撰したるに總代には保田清平氏委員には本間兼吉濱田重平氏大山彥八平尾いう川口ならゑの五名當撰せしが此ゆう平尾川口の兩女は未丁年なれども其役員たることを承諾せし由我國に於て一團結せる普通の組合中に婦人を役員に擧げたるは嵩し之が嚆矢ならんか併し此役員は總べて商船會社の承諾を得て就職するが例なれば果して商船會社に於て承認するや否やは知らずと去る十三日の浪華新聞に見ゆ

○基督教會の婦人　信州松本なる同教會の婦人達には女子の教育に乏ぼしく女德の高尙ならざるを歎き毎月第二第四の木曜日を以て小林判事の宅にあつまり經典及び道德上の事を研究し居る由なるが今回更らに其目的を擴張して會長其他役員を撰び新に婦人會を設立し專ら婦女矯風の事に盡力せんとする計畫あるよしなりその會長には多分中學校教師エルマ夫人ならんとのとなり

○廣島縣庄原基督教會　同會はメソヂスト教會と號し本年六月設立したるものなるが追々信徒增加する勢なるに付きランバス氏夫人が廿一年二月同地に學校を開らき專はら女子の教育に從事する筈なりとのこと

○廣島高等女學校　廣島縣の有志者にて兼て高等女學校を私設し高等小學以上の女子教育を隆盛ならしめんとの計畫ありて千田同縣知事を始め縣官其他多數の賛成あり此程愈々開校の運びに至り校主には山中正雄氏校長には千田ふみ子校長補佐には大河內輝剛氏學監には西川ふみ子學監補佐には野田佐三郎が撰定され其他教員もそれぞれ撰定せられたりと云ふ

○福岡婦人協會　去る十八日午前十一時より廣島材木町同會々場に於て例會を開らき客員諸氏の演說ありしと

●海外女事

○女子の高等教育　此問題は米國にては既に殆んど全勝の姿にて彼のボストンヘラルド新聞の如く女學の問題には平生守舊主義の名あるものが此頃彼のワッターソン氏（女子高等教育に反對せる論者）を評して氏若し之を危まば試みにバッサル、エルスレー、ハーバードアンテックス等の女大學を一覽せよ或は西部に行てアペルリン大學もしくはアンアボア大學を見るか之が面倒ならば氏の住地に在るク

りントン大學に行て男女共學の景況を一見せば議論も少しく減くなるべきものをと言ふに至りたり

○ナイテンゲール孃　クライシアにて危篤の熱病に罹り幸にして本復ありたる同孃は最早老年の事ゆへ近來は殊の外に健康あしく迚ても存生覺束なしとの報あり

○パットハム夫人　米國ヲハイヲ州の同夫人には左の三ヶ條の請願を國會に出して採用せられたり(中川永輝報)

　日曜日郵便に關する請願

茲に吾が下名の合衆國府民は週間の初日即ち日曜日に於て郵便馬車を締切りしを願し爾后は其日に於ては採集配布なさゞる樣郵便局長に訓令を下さんことを伏て上下兩院に希ふ所なり

　各州日曜日鐵道列車に關する請願

茲に吾々下名の合衆國府民は週間の第一日は鐵道列車に依つて各州間の商業をなすことを禁せられんことを伏て上下兩院に希ふ所なり

　日曜日軍隊操練に關する請願

茲に吾々合衆國府民は我合衆國海陸軍々人及兵學校生徒の訓練檢閱觀兵式行軍等は平時に於て週間の第一日則ち日曜日は共に兵卒の權利を以てのみならず道義上の權利を以て休日として禁止せられんことを伏して希ふ所なり

　　ヲハイヲ州、ペインスビル、ミセス、ゼーニー　パットハム

　亞米利加合衆國上下兩院議員閣下

○海外衣服改良論　西洋にても女服改良の事は色々の議論ある事なるが此頃のヴーデースレーデースブック雜誌中に左の如き一篇を見たれば抄譯して同好の人に示す」今日は往時に比して衣服を改良するに實際行ひ易すく又其必要なるは明なり上下貴賤州郡邦國に依りて異にせし衣服の風は漸く減却して今は文明世界到る所多少衣服の一致を顯はすに至れりパリー、ロンドンにて作り出す流行は佛語英語の境界を超へて遙かに其風を及ぼし彼の絕海の日本國すら益々西洋の文物を就り既に西洋婦人の衣服を學ふに至れり僅々百年前までは高貴の婦人は其好むがまゝに不都合なる衣服を着するを得而して勞動を事とする女子は之を學ぶを爲さざりしなり然れども階級廢り一般同等となるに從つて此區別速かに消滅し女公若し今呼吸を妨げ地上に拽き又た重きに過ぎて必要なる運動を得ざる衣服を着せば店頭の卓子の傍らに女公に接するの女手代も亦同衣を用ひざるを得ざるなり故に輕便實益の衣服を一般に用ひしむるは頗る急務なるが之を爲すは其責任教育ある人々の上にあり而して今日は幸なる哉此改良以前に比して甚だ容易なりこれ第一は婦人等稍々衛生の知識を加ひ强く身躰を締め長く地に拽くの長衣を着け高き踵の靴を穿くの善からざるを悟ればなり又第二は教育ある婦人は多く活潑獨立の生活を爲すに至りしを以て自由に運動を爲し得且つ風雨寒暑も困難せざる輕便の衣服を必要とすればなり

英國にて衣服改良の進步は既に世人の知る所なるが吾人は今彼のスカンジナビヤの三姉妹王國にて等しく此改良の舉ありて頗る活潑熱心なることを掲載せんと欲するなり彼國にて此改良に都合善き理由は種々ある中にも重に彼の冬の嚴寒は全身を一樣に覆ふ衣を要すること及び一般に風俗の簡易になりしより貧女等は其夏季の休息中に旅行を試み或は實に村の農家に其暑を避くる事行はるゝに從ひ自由輕便にして身に快よき衣服を要するに至りたる故なり

ストックホルム府は此衣服改良の中心にして今より二年前始めて一の改良會組織せられたり其目的は先つ最も健康に適したる良衣を發明し而して之を世に用ひしめんとするに在りて會員皆な熱心に其目的を達せんことを期し而して其期せる所は如何なる階級の爲めにも非らず四民皆な同等殊に下着類に至ては凡ての婦女をして皆な均一ならしめんとするにありき其會費たるや一人僅かに一「クロナ」即ち我が一「シルリング」一「ペンス」半に過ぎず而して此小額の費を以て或は演說を爲し或は小册子を刷りたてゝ配布せり

此舉の第一着手は千八百八十五年の「クリスマス」に衣服改良を論せる一米書を翻譯せしことあり此書は今日の衣服の健康上に及ぼす惡結果に付き諸醫學士の說を以て其半を充たすものなり且つ其記者は一二人の婦女が世の流行を新たに作り出すこと能はざるが故に此改良を遂げんには盛なる會を結ふに若かざるを說けり次で千八百八十六年三月二十九日に教授ワリス氏「ヴェタンスカプ」大學にて始めて衣服改良の演說を爲せり遂に其地に二十四人の婦女結んで一會を成すに至りしが會員速かに增加し四月二十一日を以て始めて會員の總會を開き役員を撰定しボウマン夫人を會頭にバルム夫人を副會頭にシドウ孃を瑞典英國の通信書記にボクランド孃を日耳曼の通信書記に擧げたり此外國通信は直に諸外國に在る同主義の改良會に氣脈を通ずるに至れり此時より八月に至るまで委員諸姉は力を盡くして良衣を考究し且つ種々の試驗を爲し遂に其最良と認むるものを瑞典國技術博覽會に出品せり其時三婦人其場に立ちて此見本を說明し一の見本を賣拂ひけり此頃新設なるカロライナ州立衛生博覽會にも出品し廣く公衆に縱覽せしめ殊に醫學書生の考究に供せり

又此時に當り賞金を懸けて最も健康に適せる良深靴を求めたりしが九人の靴師相競ひ遂に甚だ滿足なる靴を彼の技術博覽會に出品するに至れり

此夏季中タウストロム孃其見本をヒンランドに携へ行き大に彼國の衣服改良會を掘起せしめたり故にヒンランド婦人同盟會は瑞國改良會と通信を始め見本を交換せりノルコウピン府及瑞國ランドに小博覽會を設くるに及んで此改良の支會を此等の地に顯出するに至れり次てグヒテンボルクの婦人等此問題を取り此冬中女兒の健康衣を工風せしが其結果を得て此を博覽會に出せり翌年一月にはノルウェー國のデートリクソン氏の其嘗てクリスチヤナにて演說せる「母及び衣服改良」と題する論說を再演するの舉ありて ストックホルムにて同氏の甚だ有益なる三回の演說あり次て瑞典の諸府にても演せられたり

（以下次號）

特別廣告

東京婦人矯風會録事（前號の續）

十二月六日　日本橋教會に於て紀年會并改撰會を午後二時より開く

一讃美
一祈禱
一年會演説
一年會報告
一會計報告
一勸
一勸
一酒の害の新聞を讀并勸め
一改撰投票を行
一茶菓
閉會午後五時

主會	矢島楫
會頭	矢島楫
書記	佐々城豐壽
會計代理	本多孝
	佐々城豐壽
	山口せい
	串田しげ

改撰人名

會頭（再）	矢島楫
書記（再）	佐々城豐壽
會計	竹尾琴
仝	本多孝

議員

第一部

麹町區	島田政
仝	小崎千代
牛込區	竹尾琴
小石川區	淺井佐久
四谷區	小島きよ

第二部

日本橋區	三浦柳
仝	本多孝
仝	佐々城豐壽
京橋區	潮田千世
仝	元良米
仝	石原くに
淺草區	
內神田區	
本所區	

第三部

赤坂區	湯淺はつ
仝	徳富久
麻布區	井深せき
芝區	服部千代
仝	荒井桐月

第四部

本郷區	森島いそ
仝	青木まさ
仝	伊勢とよ
仝	寺尾愛
下谷區	荻野吟
外神田區	

同日午後六時本町新吾妻亭に於て會食す

會者十五名

矢島楫　潮田ちせ　森島いそ　島田まさ　小崎千代　本多孝　串田しげ　津田初　前島のふ　和田垣つゐ　佐々城豐壽

特別會員　稲原爾四郎　佐々城本支

客　田村顯允　中川永輝

會食中串田しげ子意見を述ぶ其趣意本會の事務所並講修所なきを憂へ特別委員に向つて寄附金を熱心に迫る直に佐々城本支金五十圓を出し續て稲原爾四郎金五十圓客田村顯允君串田しげ子の熱心に感し直に金五圓を寄附す續て列座の姉妹忽ち左の如く寄附せり

金二十圓	矢島楫
金二十圓	藤島信
金十圓	和田垣つゐ
金二十圓	本多孝
金十五圓	串田しげ
金十圓	佐々城豐壽
金五圓	潮田千世
金五圓	小崎千代

熱心茂子の一言男子を感動せしめ三十分間計の中忽ち二百餘圓の金を集む實に愛すべき勇婦と云ふべし

十一月中勸告文並規則書を配布す

一各新聞社	三十
一各雜誌社	四十二
一各女學校	二十一
一各教會	百〇七
外散布の數	三百
計五百部	

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

廣告

明治廿年十二月十五日發兌 **教育時論第九十六號**概目

社說●小學校の德育を論 **教育**●小學校と相關涉して
ず(西村正三郎稿)技藝教育を論す(社譯)
●獨逸の育兒法(中川重麗譯)●各地方に實業學校を設置する
の方案(田邊平三郎)●小學の德育は實用的ならざるべからず
(郡司篤則)●加藤弘之君の德育方案を讀む(河野於菟麿譯)
哲學●知覺の身躰的狀 **文藝**●和文(道の記)●和歌
現●天才及び早熟(數首)●開校式唱歌(潤
の松が枝)●遊戲法(競馬戲六)室 **問答**●小學修身の疑問
內クロケット●傳記(彌爾學術傳)●試驗の多少に付
生徒の得失 **內外雜纂**凡そ五十餘件 ○一冊定價金五錢郵稅
如何の答二 一錢見本に限り郵券
代用不苦

發兌所 東京下谷區練屏町 **開發社**

●基督教新聞 第二百三十號 明治二十年十二月廿一日發行

●基督教新聞○基督降誕祭●教報○リバイバル其他教報●論
說○基督降誕日の說(終)○一個の教師たる基督(終)●傳記○
ウイルバーフオースの傳(第十四回)●雜錄○仁者に敵なし○
盲目の燈火○西遊略記●小兒の話○若麥の話●雜報及廣告
每週發兌一冊金三錢府外郵稅一錢

發行所 東京京橋區日吉町廿番地 基督教新聞 六合雜誌 **警醒社**

○クリスマス贈物品

詩繪物○陶器○金物細工○其他

右仕入有之直段の儀は極廉價に差上候間多少に係はらず御用向仰付被下度候

東京京橋區銀坐三丁目廿一番地川岸通り

卍 萬家商店

發兌				
一月。	七日	十四日	廿一日	廿八日
二月。	四日	十一日	十八日	廿五日
三月。	四日	十一日	十八日	廿五日

定價

一冊。五錢 郵稅。一錢(但府內無郵稅)
十冊。四十八錢郵稅。十錢(同前)
半年分 一圓十七錢 府外は 一圓四十三錢
一年分 二圓卅四錢 府外は 二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を掲載するものに右雜誌十部の注文を要し以上半頁分每に十部增の割合と定む

一行 一回 (廿七字詰) 前金拾錢
同 三回以上 一割引
同 六回以上 二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絕す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學に關係の書籍は一部寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *ye*
2.86 per annum, in advance.
Edited and published by Y. H. Iwamoto, a
The Jogaku Zasshi Office, No. 8 Hiyoshich
Shinbashi, Tôkyô, Japan.

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町巖々堂○東京芝西久保櫻川町萬春堂○東京
神田區雉子町鬪々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本
橋區新鞍町良明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本鄉區
元富士町盛春堂○同本鄉區春木町二丁目解明堂○東京本鄉四
丁目文壽堂○横濱伴吉町角田屋貞○京都四條通小橋へ入澤集
光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンボード○大坂備後
町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城
縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版舍○出雲國松江
新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町虎與號
○江州彦根西內大工町新々堂○相州小田原緑町○石壽堂○上州
高崎田町煥平堂○土佐國高知本町三丁目樂園堂○熊本文明堂

發行所 本局 東京京橋區日吉町八番地 **女學雜誌社**

持主兼編輯 巖本善治
印刷 森田豐

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY